

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500163		
法人名	株式会社ユアエイブラチナ		
事業所名	アイフロント神田		
所在地	池田市神田3丁目2番2号		
自己評価作成日	平成32年1月15日	評価結果市町村受理日	平成32年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成32年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アイフロント神田の「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念をスタッフのスローガンとし、ご利用者の思いや気持ちに寄り添ったケアを心がけています。ご利用者にとって居心地が良く、ご本人が必要とされているとの思いを持って頂けるよう、様々な事柄に協力を求め、実践を心がけています。常にご利用者に対し細やかな気遣いや心配りができ、毎日笑顔で過ごせるよう日々ケアをしています。なお、スタッフが働きやすく、話しやすい環境作りに努めています。スタッフ同士の仲の良さも自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は1ユニット9名で、開所して6年目を迎えている。平屋建ての玄関を入ると、高い天井のリビングに広接セットがあり、寛げる我が家の雰囲気がある。利用者は、寒い日も暑い日も毎日近くを散歩し、四季の移ろいを感じている。管理者・職員は、法人の合併後も変わることなく利用者・家族に寄り添い、「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念を実践している。毎月第2土曜日に法人経営のカフェテリアに外食に出かけたり、利用者の誕生日当日に好きなものでお祝いをするなど、多数のイベントの計画がある。運営推進会議には、毎回多くの家族が参加して活発な意見が交わされ、介護計画作成時にも、家族の参加を得て担当者会議で話し合っている。利用者が明るく楽しく、ここに来たら笑ってもらえるようにと、職員が一体となって支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念をリビングに掲げ、ご利用者の思いに寄り添い、日々安心して過ごせる施設作りを心がけている。	事業所理念を「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」と皆で考えて作成し、リビングの目に付くところに掲示している。パンフレットにも記載し、運営推進会時に読み上げて皆に周知している。職員は会議時に確認して、日常のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入会していた町内会が解散となつてしまつた為、管理者が以前から行っている近隣の掃除を行いながら挨拶を交わし交流を心がけている。	自治会は解散しているが、利用者は毎日の散歩で近所の人と挨拶を交わして交流し、神社の祭りにも出かけて地域交流に努めている。2つの中学校の体験学習の受け入れをしている。ギター・リコーダー・脳トレ等の定期的なボランティアの訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日のご利用者との散歩の際、地域の方々とは挨拶や言葉を交わしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に、ご家族、市の地域支援課の職員の方に参加頂き開催している。 ご家族にご参加頂きやすいように基本、土曜日に開催している。 取り組み状況等を写真入のレジメを用いて報告し、質疑や意見交換を行いケアに活かしている。	年6回の運営推進会議は、家族が参加しやすい第3土曜日と決め、家族・地域支援課員・事業所職員が参加している。会議では、事業所の現況や行事の報告をして話し合い、アドバイスを受けて事業所の運営に取り入れている。議事録は、玄関先の目に付くところに開示するとしている。	年6回の会議は、多数の家族が参加して開催されているが、市地域支援課員の欠席が多く、地域住民の参加が得られていない。会議は広く意見を受ける場として、民生委員や知見者等の参加を得るよう工夫することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	池田市の地域支援課とは、質問、報告、確認等々些細なことでもおたずねし関係を築く取り組みを行っている。	行政の担当者とは、分からないことを聞きに出向いたり、困難例の相談や事故報告に行つて良好な関係性を築いている。市の研修の情報を得たり、集団指導の研修に参加し、グループホーム連絡会で空室の情報交換を行つてアドバイスを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設において身体拘束はもちろん、スピーチロックについても禁止の言葉等研修を行っている。 施錠については、夜勤は1人対応なので、18時以降は施錠している。	身体拘束のマニュアルや指針は整備しており、具体的にスピーチロック等の研修の場を持ち、職員は互いに気付きを注意し合っ、身体拘束しないケアの取り組みをしている。日中は玄関を解除し、庭先の花を見たりして閉塞感のないケアに努めており、夜勤帯は安全上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がらないよう具体的な事例について、朝夕の申し送りやミーティング時にスタッフ間でディスカッションしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外において研修を受講できるよう心がけている。 当施設では、現在2名の方が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際ご家族に重要事項説明書の内容を全て説明し内容をご理解頂いたうえで契約を結んでいる。 後に不明点等あれば随時説明する旨をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見は希望はケアプラン作成の際ケアマネが聞き取りを行いスタッフにも周知する。 ご家族の意見はサービス担当者会議にて確認を行っている。 また玄関にご意見箱を設置している。	家族の訪問時に話を聞いたり電話で聞いたりしており、運営推進会議時にも聞いている。聞いた意見等は記録して職員皆で共有している。毎月「アイフロント神田便り」を発行し、利用者の様子を伝えている。利用者からは、日常の会話の中で意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り及びミーティングで気付きや意見交換の時間を設け、改善提案や良い意見は即周知出来るよう工夫をしている。 月一度以上基本全員参加のスタッフ会議を行い、ディスカッションしている。	毎月の職員会議や朝・夕の申し送り時に、職員の意見や要望を聞いて話し合い、運営の改善に取り組んでいる。管理者面談は年に1度あり、随時面談の機会もあって、職員は何時でも意見が言える。資格取得の情報を受け、スキルアップに向けて法人の支援を受けることが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は施設のイベントに参加し、面談を実施したりアドバイスや目標に向けての支援制度も整備されている。 管理者とスタッフ間では、定期的な面談の他、話し込みが必要なスタッフとはその都度聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修についてはスタッフが一同に受講出来ないなので、個別体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月毎に開催されている池田市グループホームの連絡会にて施設の事例発表や検討会に参加し他施設との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご利用者、ご家族と面談を行い希望や要望、不安や困りごとを聞き取り、気持ちに寄り添い、施設のこともご理解頂き納得されるまで話し合いの時間を設ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族に対し興味・関心チェック表を用い、ご利用者の生活歴等の聞き取りをし、ご利用者が溶け込みやすいような環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の今現在の状況を把握し、必要な支援をスタッフと共に考え、ご利用者の情報はスタッフ一同共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご利用者の家族の気持ちとなり、その方の出来ることをお手伝い頂き、必要な存在であると感じてもらえるような声かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設に関わって頂き協力を仰ぎながら、スタッフと共に普段から様々な事柄に関わりをもって頂けるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の知り合い、旧友、遠方のご親戚など大切な存在の方々が訪ねて来られたり、小さなお孫さんやひ孫さんも来所される。ゆっくり寛いでいただけるよう配慮している。	利用者の家族や親戚・孫の訪問を受けていて、近所の友達も訪ねて来てくれている。散歩時に墓参りをしている利用者や、家族と一緒に外出に出かけている。新聞を取っている人や、電話の取次ぎを依頼している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折、言い争いになることもあるが、ご利用者同士の関係は良好である。仲たがいた時にはスタッフがさりげなく仲を取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のさい、ご家族に困りごと、心配事があれば、いつでも連絡してもらえようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表を基に、ご家族との会話の中から生活歴や好きなこと、趣味や興味のあることを聞きだせるようにし、ケアに反映させている。	契約時に、利用者の思いや生活歴等を聞き、フェイスシートに記録している。事業所独自の興味・関心チェック表を用い、利用者の趣味や思いを汲み取るようにしている。記録した情報は職員間で共有し、その人の思いに沿えるケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心チェック表を基に、ご家族からもご利用者の詳細な情報や、今までの経過の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、目視での様子観察や会話の中から、その日の状態の把握に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状態を把握し、ご家族とのサービス担当者会議を開催し、それを基に介護計画書を作成し、変化がなければ6か月に1度見直しをする。状態の変化等あれば、都度変更する。	利用者・家族から聞き出して作成した基本情報を基に、介護計画を作成している。支援経過記録や職員のカンファレンスノートを用い、医師の意見や整体師の報告等も取り入れ、家族の参加を得てサービス担当者会議で話し合い、6か月に1度計画を見直している。利用者の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夕方のミーティングで、情報の共有、意見交換を行い、記録を基に状態の変化等の把握及び、必要に応じて介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態は日々変化するのでその日に応じた柔軟な対応をし、その日その日に応じたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるよう池田市と連携を図りながら支援を行っている。豊かな自然や歴史のある街を散歩し楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問医以外は、基本家族対応をお願いしているが、ご家族での対応が難しい場合は臨機応変に施設で対応している。調剤薬局との連携も取れている。	契約時に、家族や利用者の希望でかかりつけ医を決めており、協力医の内科・歯科は、月に2回訪問診療を受けることができる。その他の医療機関や従来のかかりつけ医には、家族の付き添いを基本としているが、行けない時には職員が付き添っている。診療情報は主治医より家族に伝えている。家族の希望により、協力内科医は2か所として、適切な支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子と変化見られた場合は、施設には看護師の配置がされていないため、訪問医に速やかに連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設内での情報を共有し、退院時には病院と連携を取り、地域相談室の相談員さんを含めカンファレンスを行ってもらえるようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、施設管理者、ケアマネージャーと話し合いの場を持ち、看取り時に出来ること出来ないことを説明しご家族の思いもお聞きした上でターミナルケアの締結を行っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、家族や利用者に説明し話し合っ確認している。利用者の状態に変化があれば、主治医より家族に説明して、対応指針の書類を交わして関係者と話し合い、家族の思いに沿った支援に取り組んでいる。今までに看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を貼り出している。消防訓練の際、消防士さんから応急手当や初期対応の教えを仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は町会やご近所の方に協力をお願いしている。北神田町会には、ご家族が了承している方のみ利用者情報を開示している。5月・10月に消防訓練をし、備品の準備もしている。	近所の人に声をかけ、消防署立ち合いと自主訓練を年2回実施している。消防署より指導や提案を受け、訓練時に取り入れている。災害マニュアル・連絡網を整備し、ハザードマップを確認している。災害時用物品として水・米・ラーメン・懐中電灯・ランタンの用意がある。家族の了解の下、利用者の情報を町会に開示し、災害時の避難協力を活用してもらうようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるとの思いから、尊敬や敬いの気持ちを持つての対話や対応をスタッフ一同心がけている。	年間計画に接遇研修を取り入れ、利用者の尊厳や人格を尊重した対応に努めている。職員は、利用者への言葉かけに気を付けて互いに注意し合い、排泄時には利用者の羞恥心や自尊心を傷つけないように配慮して対応している。個人情報書類等は、施錠の出来るロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりとの対話を大切に、話しやすい環境作りを心がけ思いと違うことを無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活と変わりなく過ごせるよう、起床、就寝の時間を決めていない。日中の昼寝も自由にしていて。何事も無理強いせず、希望を確認し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みを普段の対話の中から把握し、朝の更衣時や、お出かけの時にはお好みのものを選んでもらい、時にはアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には嚥下体操を行い、一品ごとにメニューを伝え、スタッフの声に合わせ「いただきます！」と発声を促す。下膳や片付けを利用者と共に行っている。月に2度ほど手作りの昼食や、時には外食を楽しんでいただいている。	配給サービス業者のクックチルド食品を利用して提供している。その都度職員が味見をして、汁とご飯はキッチンで準備し、ご飯は柔らかめに炊き上げている。月2回、利用者の好みを聞いて、カレーやたこ焼き・焼きそば等を手作りしている。毎月第2土曜日には市役所のカフェテリアに出向き、サンドイッチやカレーの外食を行い、誕生日には出前等で祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取1200ccを目標とし、食事摂取量も記録している。水分量、食事摂取量の不足を把握し、適正量が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しの声かけをし、ご自身で難しい方はスタッフが介助しケアを行っている。月に2度訪問歯科医の診察と口腔ケアを受診し、スタッフの気になることを相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、その方に応じて声掛け、誘導をしている。トイレでの排泄が出来るよう、スタッフが細目に誘導し、根気強くトイレ介助を行っている。	排泄表で利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるように誘導している。ポータブルトイレは使用していない。便秘にならないように、予防体操、植物繊維の摂取、水分の補給を心がけている。1人の利用者のみ保健婦に来てもらい、適便の為に浣腸をして排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に水分補給や食事、おやつの内容に気をつけている。水分は1日1200ccを目標とし、毎日の体操も便秘の解消に役立つ体操を取り入れている。水分摂取が難しい方には、寒天ゼリーにし、摂取してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、同姓介助とし、スタッフのシフト上、1週間の入浴予定を決めていて、週2回入浴していただく。浴槽のお湯は、おひとり入浴の都度交換している。	日当たりの良い浴槽で週2回入浴し、毎回湯を取り換えている。30分前後をかけて、職員と1対1で歌を歌ったり談笑して、ゆっくり入浴することを心がけており、足浴をすることもある。乾燥肌にならないように、保湿クリーム等で対応している。入浴拒否の場合は、清拭やシャワー浴に切り替えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅でお昼寝の習慣のあった方には、様子を見ながら居室での昼寝を促したり、夜間もリビングで眠そうにしていたら、就寝の声掛けをし、居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携し、薬の管理をお願いしている。薬局が個人別に1週間分1日ごとのケースに仕分けし用意し、服薬の管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の有する能力把握したうえで、掃除機かけ、モップかけ、雑巾がけ、洗濯物たたみ等、その方の出来ることをしてもらっている。嗜好品は、ご家族がお持ちいただいている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、施設で企画した外出、外食レク、ご家族と外出される方もおられ、ご家族との関わりも大切にしている。	毎日の散歩を心がけている。利用者は、お寺参りや自社の近隣周辺を散歩し、玄関先の花の水やりをしたり、椅子を置いて日向ぼっこやゲームをしたりしている。家族と共に外出して買い物に行っている。季節に応じて散歩パターンやルートを決めて出かけ、八坂神社の桜見学に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、基本金銭の所持はしてもらっていませんが、外出の機会に必要であれば、ご家族にお話し、お金を預かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設では、現在手紙のやり取りをされる方はおられません。電話については希望があれば、間を取り持ち対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのいい場所に食卓を配置し、窓飾りを眺めたり、時には窓の外に花を栽培したり、居心地の良い空間となるよう心がけている。トイレには、場所が分からない方のために多く表示している。	天井に梁が張られ、天窓があり、リビングと応接間が繋がり、ゆったりとした空間の中で全員顔が見渡せ、読書をしている人もいます。壁には、書道や季節の貼り絵が飾られ、遊びに来た孫達が利用者に囲まれて、絵本を読んでもらったりして楽しく過ごしている。玄関先にはプランターが多く置かれ、季節の花が咲き誇っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とリビングのソファの配置に距離をとり、ご自身のお好きな場所で寛げるよう工夫している。居室でお過ごしの方には、食事、おやつ、レクの時間には声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約のさい、ご家族に、ご利用者のお好みの物や、使い慣れたものをお持ちいただくよう伝え、入所後も安心して過ごしいただけるような居室作りを相談しながら行っている。	利用者が安心して過ごせるように、使い慣れた家具や飾り物等を持参している。仏壇を持ち込み、床にカーペットを敷いてホーム炬燵を置いたりして、アットホームなその人らしい個室づくりをしている。応接間の来客のざわめきが部屋まで聞こえ、家庭的な趣がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、安心安全にご自身で移動してもらえるようにしている。トイレや浴室には、目で見て分かりやすいように大きな文字で表示している。		